

祝 横浜市立義務教育学校 緑園学園開校 緑園に新しい時代の幕開け！

緑園にとっての悲願でありました中学校が、小中一貫義務教育学校という形でこのたび誕生しました。このことは、この地に住まう私達に、夢と希望を与える大きな出来事であり、まさに緑園の新しい時代の幕開けと言っても過言ではないと思います。

今号では、過日挙行された開校記念式典の様式や、新しい校長先生をはじめとする学校の体制、出来上がったメインアリーナ等の教育施設、新しい通学路での児童・生徒と見守る地域の人達の様子などについて紹介します。

また、別刷版では、長い歴史に幕を閉じた緑園東小学校と緑園西小学校の閉校式や最後の卒業証書授与式などの模様について、両校の副校長先生にご寄稿いただきましたのでご紹介します。

◆◆ 緑園学園開校記念式典が挙行されました ◆◆

4月1日（金）、緑園学園の開校記念式典が新設成った同校メインアリーナ（後期課程屋内運動場）に於いて、盛大に挙行されました。開校式は、横浜市教育委員会の鯉淵信也教育長はじめとする教育関係者や行政及び地域住民の代表など、新型コロナウイルス禍の中ではありましたが、蔓延防止に努めながら、多くの関係者の列席のもとでの開催となりました。

開校式の冒頭、鯉淵教育長により開校宣言がなされ、学校管理職の紹介の後、初代校長に就任した野口弘之氏より挨拶がありました。続いて来賓の紹介、来賓代表挨拶の後、開校準備委員会会長の成田俊人（緑園連合自治会会長）より、お祝いの言葉が述べられました。保護者代表の言葉では、初代PTA会長に就任した山口正人氏より、開校に当たっての抱負が述べられ、最後は動画での参加の児童代表によるメッセージが寄せられました。



メインアリーナ全景



挨拶する鯉淵教育長



挨拶する野口新校長



列席した地域住民代表ら

開校のあいさつ

緑園学園校長
野口 弘之

本日付けで、緑園学園の校長を拝命しました野口でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

今朝がたまでは、激しい春の雨が降り続いておりましたが、今は、すっかりとやみ、少しずつ日差しも見え始めてまいりました。

満開の桜の下、本日の開校式に、多くの皆様にご臨席いただき、このように実施できましたこと、心より感謝申し上げます。

本当に、ありがとうございます。

この緑園学園は、市内で3校目の義務教育学校として誕生いたしました。小学校2校を前期課程として、更に後期課程を新設するという開校の形態は、これまでにはなく、その意味では、最初の義務教育学校とも言えます。

新たな義務教育学校として、特色ある教育活動を展開し、横浜市の小中一貫教育をリードできるような学校づくりを行ってまいります。

開校宣言にもありましたように、この緑園学園は、この地域の益々の発展と、連携の象徴でもあります。広く社会や地域に開かれた学校として、地域に愛され、地域の方々とともに、地域に根差した学校として、将来の人材を育ててまいります。

「しろがねも くがねもたまも なにせんに まされるたから こにしかめやも」とは、万葉集の山上憶良の歌ですが、子どもこそ、保護者や地域の方々の方々の宝であります。その宝を大切にお預かりし、この地域はもとより、社会や世界で活躍できる人材として成長できるよう、教職員一同、子どもたちをしっかりと支え、支援・指導してまいります。

緑園学園は、義務教育学校として、9年間の小中一貫した教育を展開する学校であり、前期課程、後期課程という法的な区別はございますが、基本的には、前期後期が一体となった一つの学校として、教職員が一つの組織、まさに「ONE TEAM」となって、新たな学校づくりに取り組んでまいります。

ところで、先ほど教育長がご挨拶の中でも、触れられておりましたが、緑園学園には、「真のグローバル人材に 自主 協働 創造」という校訓、スクール・モットーがあります。そして、学校教育目標の実現を目指していく上で、五つのコンセプトを掲げております。

コンセプトの中心には、持続可能な開発のための教育、すなわちESDを置き、自然や社会に関わる様々な課題を自らの問題として捉え、協働して解決していく力を育てていきます。また、具体的には、独自教科の実施、ICTの活用、国際交流、異学年交流に積極的に取り組んでいきます。

こうした特色ある教育活動を展開するには、地域の方々、ボランティアの方々、関係機関の方々など、多くの方々のご協力とご支援が必要となります。

これまで、地域の方々には、子どもたちの登下校の見守りや学習への支援など、様々な場面で、ご協力いただいております。また、この度は、すでに、地域の方々には、学校を支えていただくボランティアへの登録や、部活動で使用する楽器や花器等のご寄付など、ご支援 いただいております。この場をお借りして、お礼申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願いしたいと思います。

結びになりましたが、改めまして、開校にいたるまでの間、多大なるご尽力をいただきました、地域の皆様、議会の皆様、また、関係の皆様に、厚く御礼を申し上げますとともに、引き続きのご支援を何卒お願い申し上げます。

子どもたちの健やかな成長と、地域のますますのご発展、皆様のご健勝を願いますとともに、この緑園学園が地域の学び舎として成長していくことをお誓いして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

お祝いの言葉

緑園連合自治会会長
成田 俊人

ただ今、ご紹介をいただきました、緑園義務教育学校開校準備委員会の会長を務めておりました、成田でございます。

横浜市立義務教育学校緑園学園の開校にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。保護者の皆様、地域の皆様、そして関係機関の皆様、緑園学園の開校、心からお喜び申し上げます。待望久しかったこの学校が、開校の日を迎え大変嬉しく思っています。これも、ひとえに本日ご出席いただきました皆様のご支援ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

緑園学園開校の発端は、今から20年以上前の緑園地区への中学校設置要望に遡ります。地域の皆様による広報活動や署名活動を経て、なんとか横浜市に、小中一貫校の設置として認めていただきました。その後、緑園地区義務教育学校開校準備部会が設置され、学校名や通学区域を定めたり、区役所に通学路安全について要望をしたりしました。

また、先ほどご紹介をいただいた緑園義務教育学校開校準備委員会では、校章を公募により決定したり、標準服を選定したりといった、より具体的な準備を進めてきました。

何とかここまで進めてこられたのは、ご協力いただいた地域の皆様、関係機関の皆様のおかげだと思っております。心より、感謝申し上げます。

さて、本日、晴れて開校を迎えましたが、開校は一つの区切りであり、目的ではございません。今後、よりよい教育活動を行っていくことこそが大切です。教職員の方々にとっても、新しい学校をスタートさせ、軌道に乗せるまでには、膨大な労力を要することと思います。ぜひ、教育委員会や行政の皆様には、今後とも緑園学園の子どもたちや教職員の方々を、手厚く支援していただきますようお願い申し上げます。地域としましても、学校を全力でサポートしてまいります。

緑園学園の開校にあたり、感謝と引き続きのご支援のお願いを申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

◆◆緑園学園で入学式、進級式、始業式が行われました◆◆

緑園学園として初めての入学式が、4月7日（木）に行われ、132名の元気な新1年生が緑園学園の仲間となりました。緑園学園の記念すべき最初の1年生です。増築・改修された校舎のもとで、たくさんの仲間と思切り学校生活を楽しんでほしいと思います。

また、午後には新7年生の進級式も行われました。

◆◆緑園学園への地域からの寄贈についてお知らせ・御礼◆◆

<スタンドグラス募金>ご協力ありがとうございました。目標額（150万円）を大幅に上回り計50件・約228万円に達し、地域交流室にすでに設置を完了しています。余剰金は、テント3張、法被の購入寄贈に充てる予定です。スタンドグラスには、東小・西小の子どもたちが製作した校章をあしらった図案が採用させています。

<時計塔>緑園義務教育学校建設準備会が相鉄ホールディングス(株)の協力を得て寄贈し、グラウンド奥に設置完了済みです。

<植栽（ハナミズキ）>連合自治会から2本寄贈。すでに正面玄関付近に植えられています。



スタンドグラス



時計塔



2本のハナミズキ

◆◆緑園学園訪問記◆◆

緑園学園が新しい体制のもとスタートしました。校長は野口弘之氏、准校長には菅原和子氏、副校長には丹野一郎氏、田中光弘氏が就任されました。

4月13日（水）の午後、貝沼、長谷川が取材にお邪魔しました。当日は、よく晴れて、まばゆい光を浴びた新しい校舎に入り、校長室に案内されると、野口校長が出迎えてくださいました。

さっそく、校長、准校長、副校長が揃ったところで記念撮影させていただきました。

まず、本紙や本号の構成についてご説明し、編集への協力をお願いし、快諾いただきました。校長先生へのインタビューに入ると、



（左より）丹野副校長、菅原准校長、野口校長、田中副校長

ご出身は横浜市で、専門は国語。初任は鶴見区寺尾中を皮切りに、台湾の台中にある日本人学校に3年間派遣された経験がおりとのこと。保土ヶ谷区西谷中校長を2年間勤め、再び教育委員会に在任中に、緑園地区に小中一貫型義務教育学校設立のニュースに触れた。その後当校の担当になられ、このたびの就任を命ぜられたとのこと。

緑園、名瀬、岡津、新橋地域の印象は、緑豊かで静かな環境に恵まれたすてきなまち、住みよいまちで、子どもたちの学力レベルが高いことを挙げておられました。

これからの課題としては、外国語教育や表現力の向上に力を入れて行きたいとのことで、具体的には、例えば、SDGsでは環境問題などについて皆で協力して課題を見つけ解決して行くことを挙げておられました。

話が弾んでもっと続けたいところでしたが、あっという間に予定時間がきて、緑園学園の明るい未来を感じながら、帰路につきました。

◆◆緑園学園の主な新しい特色ある機能・設備についてご紹介します◆◆

<学校給食室>

前期課程に加え、後期課程（中学生）にも対応できるよう、改造されました。

<メインアリーナ>

冷暖房付で、バスケットコート2面の広さを有する大型体育館です。

<プール棟>

1年生から9年生まで利用するため、水深を変えることができます。

<ALL（アクティブ・ラーニング・ライブラリー）>

学校図書館機能とICT機器を活用した学習スペースとしてレイアウトされています。

<教室>

一人一台端末に対応し、全ての普通教室と多目的室等で、授業で活用できるプロジェクターを設置しています。

<その他：地域交流室・発表交流ルーム・防音機能付き多目的室・武道場など>

（横浜市教育委員会資料より一部引用しています。）

◆◆緑園連合自治会総会開催予定について◆◆

本年度の連合自治会総会は、5月14日（土）に開催予定です。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、書面による開催といたします。

総会は、各自治会から選出された82名の代議員による総会となります。

編集後記

Vol.48は緑園にとって念願であった、緑園学園開校についてお届けしました。小学生の娘は、東小と西小がいっしょになり、新しい友達ができた喜んでいました。緑園学園が児童と地域をつなぎ、緑園がよりいきいきとした町になることを願っています。

【編集委員】貝沼貞夫、長谷川幹夫、田谷善宏、飯塚智明、森田伸一、鈴木英範